

三尾
重定
編輯

新編
小學讀本
第八

178
4
93

大日本教育會館			
三	二		
五號	三架	六函	九册

K120.8
68a
8

三尾重定編

新編小學讀本第八

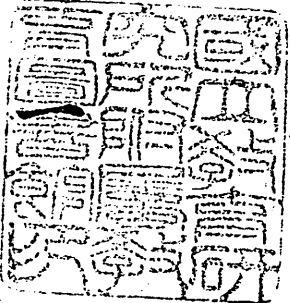
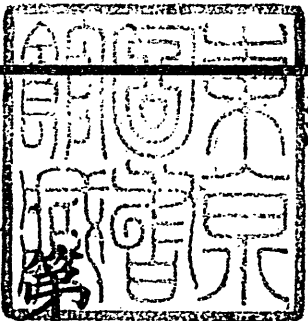
東京

教育書院藏

明治二十年二月四日 内務省交付 2627



新編 小學讀本第八



三尾重定 編

人の幸福ハ。その身健康にして。長命なるより。大なるいなし。其身健康ならざる時ハ。以かに心をはげ

新編 小學讀本

第八

一

教育書院

まゝして。其業を大にせんと欲すと
以へども。其勞に勝る志を能てん。
又その命の長からざれむ。其業半
にして破れぬべし。さまむ。人をもし
一の事業を起ん。志を志、秘ざ
さば。常に其身を大切ふして。養生
の道を守るべし。

スベテ事業ハ。速ニ爲スベシ。遅レ
バ則カナラズ。思ハ又障リノイデ
來ルモノナリ
茲ニ一人ノ童子アリ。毎ニ命ヲ受
テ。直ニコレヲ爲シタルナリ。一
日其母。庭ノアミ戸ヲ鎖セヨトイ
ヒケレバ。童子答ナガラ。猶遊ビ戲

レ居タリ。此隙ニ。飼ヒ置ク所ノ豕。庭ノ内ニ群リ入テ。花木ヲ殘ラズ。フニ荒シタリ。

母。また讀本を出シて。おれを復習せよ。と以ひけるに。童子また答ながら。終によまむ。翌日。學校ニ至り。あるに。試験ふあひ。所々よみ誤り

て落第せり

コノ童子。長ズルニ及テ。猶コノ癖ヲ。改ムルヲ能ズ。サキニ自宅ヲ保。險會社ニ。委托セント決シタレド。モ。猶怠リテ其期ヲ延セリ。然ルニ一夜。近隣ヨリ火起リテ。其家コトククヤケ失タリトゾ。

第二

堪忍といハダヘシノブと訓て。妄に怒を起さざる志やな里。人以やしくも。堪忍の二字を守らバ。生涯まさに安穩なるべし。志にをかき譚あり。兩の鼠。一のはんをむき來り。志れを分たんとて。割て二となりたるに。一ハ大にして。一ハ小なり。互に其大あるを取んとて。争ひてやまず。終に志を老猫よ訴へ。その裁判を請ひけ



新編 山陽讀本 第八 教育書院

まきバ。猫すまのち天秤を以てその麩包をかけ試るに。一ハ重くして。一ハかるし。

猫曰。此パン輕重アリ。今汝等二均クシテ得サスベシ。トテ其重キ方ヲ一口クラヒテ。天秤ニ掛タルニ。前ノ輕キモノ。反テ重クナリケレ

バ。又コレヲ一喫セリ

兩鼠此の体を見て。猫殿のする所は未だ不審なり。此の如くにして平均を量バ。此の麩包漸減ドて。或なきに至ん毛知るべからず。とて此の訴訟を止ん事を乞ひ

猫曰。余ハモトヨリ至正ヲ主トス。

均クセザレバ。此麪包ヲ返ス。能
ズトテ。彼ヲ啖ヒ。此ヲ喫シテ。ソノ
平等ヲハカリケレバ。遂ニ餘ス處
ナキニ至リト云
されバ。不當の志やあると。初
少く堪忍の二字を守らバ。大なる
損耗なし。能々慎み戒むべし

秋雨スデニ霽レテ。一天拭フガ如
シ。時ニ山童アリ。キノコヲトリ來
リテ。走テ父母ノ前ニユキ。其美ニ
シテ。且多キヲ悦ベリ
父母。コレヲ見レバ。紅菌ナリ。スナ
ハチ徐ニ諭シテ曰。是ハコレ紅茸
トテ。美ケレドモ其質アシク。毒ア

リテ。是ヲ食ヘバカナラズ死ス。サ
レバ是ヲ棄テ。復毒ナキモノヲ搜
シ見ルベシ。凡テ菌ノ美キハ皆ア
シ。松茸。シメジ。椎茸ノ如キヲ見
ヨ。其カタチ醜トイヘドモ。味美ニ
シテ又毒ナシ。是タビニ菌ノミニニ
限ルベカラズ。表面ノ美ナル者ニ

ハ。中心及テ惡キモノアリ。汝フカ
ク意ニ記シテ。妄ニ美ヲノミ愛ス
ルヲ勿レ

第三

次ニ寫せる圖ハ。一人の老翁。多く
の兒童を招き集めて。ひそかに其
賢と愚とを。試しみる處なり

此、に紐あり此長を知んこさる
 一ハ。如何して可ならんや
 尺度ヲ以テ量ルベシ
 此の果にハ大小
 あり。輕重を知
 る術ありや
 天秤ニテ掛ケ

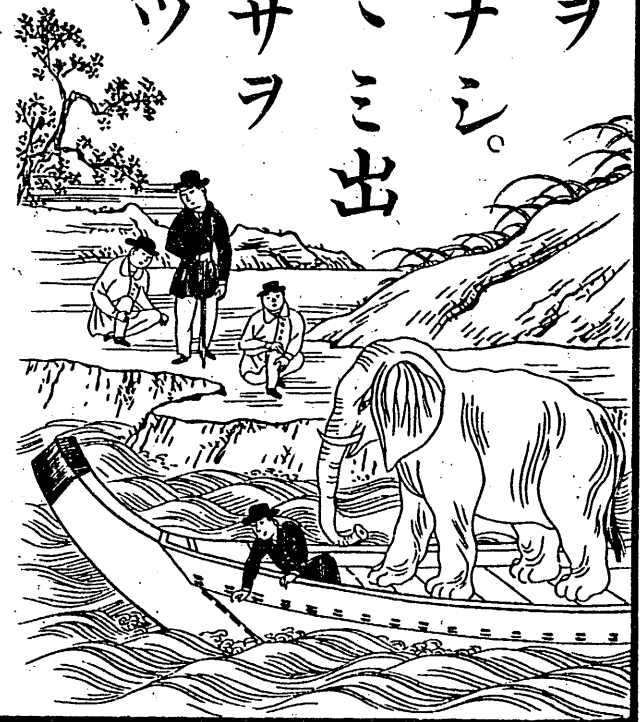


試レバ。明白ナラシ
 汝の家竹藪ハ。よく茂り
 たり。其竹を一ツも洩さ
 ず。且すみよ
 かに數ふる
 此をを得る
 や否



一把ノ繩ヲ四五寸ヅ、ニ切り。其
 數ヲ記シ置テ。片端ヨリ結付マハ
 ラバ。速ニシテ且漏ス所ナク。其數
 ヲバ知ルベキナリ
 然バ。牛馬またハ。象のむき。大車
 動物の重さを知んとするにハ。
 汝らむきを何とかする

群兒とナ口ヲ
 閉テ答ル者ナシ。
 時ニ一童ス、ミ出
 テ曰。ソノ重サヲ
 知シニハ。マヅ
 其象ヲ船ニ
 ノセテ。船ノ外側ノ水ニ入タル處



二印ヲ附ケ置キ。カネテ量目ヲ定メタル。俵ヲ以コレニ易ヘ。彼ノシルシセシ船底ノ。沈ムヲ期トシテ積入^ルトキハ。容易クシテ。其象ノ重サヲ知ルベシト云リ

第四

むか。毛孤^一の周の世に。呂望

と以ひ一人あり。此人。文王の師となりて。位も高く。家を富て。其名四方にきこえ^一が。其はドめよハ貧くして。渭水の上にゆき。釣をたると。を常とせり

その妻。呂望お毎に魚を得て。かへるは。おまきを恠て。一日。そのつり

ば里をあらため見るに。真直よ一
て。よの常の釣よあらざりけまば。
大にその愚なるおを罵て。夫婦
の縁をたちて。去けり

其後呂望。富貴の身となりたるお
ををま。彼妻きたりて。おのぶ
やく夫婦とならんおを請けま

ば。呂望。桶に水を入れて。おを地よ
おぼさしめて。又その水を。舊の如
く桶に入よ。とひひまきば。妻晒て。
一度覆せし水の。何とて桶よ歸る
おをを得べき。とひへば。呂望曰。汝
我と夫妻の縁を絶たるおを。猶
おの桶の水の如し。今に至りて。何と

てもとの如く歸る志を得べき。
とてゆるさざりけり

又ムカシ。莊子トイヘル先生アリ。
家貧クシテ。其日ノ食モ盡タリケ
レバ。隣ノ家ニユキテ。食ヲ乞ヒシ
ニ。隣家ノ人答テ。ワガ食スル處ノ
モノヲ。先生ニ奉ルハ不敬ナリ。今

兩三日ヲ待タマヘ。千金ヲ得テマ
キラスベシ。トイヘバ。莊子曰。ワレ
昨日。他ヘ行キシニ。後ヨリ呼ブ者アリ。
顧レバ。一ツノ鮒車ノ跡ノ。少シ窪キ
所ニアリテ。吾ハ河伯ノ使トシテ。
江湖ヘユク者ナルガ。過テ此所ニ
オチ。喉カハキテ死ントス。先生水

ヲ持來リテ救ヘト

イフ。故ニワレ鮒

ニ告テ曰。コノ

地ノ水ハ惡ク

シテ。汝ニ與

フルハ氣ノ毒ナリ

今兩三日ヲマテ。我江湖ニ遊ニト



ス。其時夕ヅサヘ放チヤルベシ

鮒晒テ曰。先生何ゾ思ハザルノ甚

キヤ。兩三日ヲ待ウチニハ。吾カナ

ラズ干物トナラント云リ。ト語リ

ケリ

されバ。人の危急を見てハ。早く六

きを救ふべし。斟酌して其時をす

ささば。却て不仁におちいるは
あるべし

第五

心と以ふもの。もとたれ。形あら
ざれども。善ふも移り。惡よ
ま染て。實に窮りなき者あり

心とにあらざれば。目よ其物を

見まごえ。明ならざ。耳よ其聲を聞
と雖。まゝわくまやなし。故に心は
正しうせざら有べからざ

凡心は。一身の主にして。耳目鼻口
手足の如きは。皆その心に従ふも
のなり

ささば。一心正しき時。耳は。惡ま

聲をきかんとまきごえ。聞クはを
得レズ。目ハ。惡クき色をみんハを欲
まれども。見ルるハを欲ス。鼻ハ。あ
しき臭ニをかキ。口ハ。惡クき言を以テ
んとまれごえ。得ルるハと能ズ手足
も亦惡事をなし。惡所に行んと欲
まると以テへズえ。心ハを許スる

故に。其身よく脩りて。人の爲スべき
務ヲをなし。行フふハ道ヲをおこなひ
得ルるハに至ルべし

新小學讀本第八畢

版權免許

明治十九年一月廿五日

再版御届

同五月廿八日

校正三版御届

明治二十年一月十七日

定價金五錢五厘

愛知縣士族

三尾重定

東京府士族

岩田富美

神田區五軒町十九番地
淺草區西鳥越町十番地

東京府士族

吉澤富太郎

本所區松井町三町早番地



編輯者

出版者

出版并
發賣人